

校内研修において、一人一授業や互見授業週間などの機会を設定し、共通理解のもとに生徒の学力向上に向けた授業改善について学び合うことができている。また、日々の授業においては授業前のウォームアップ、付箋を活用した授業や家庭学習との連携などをおして学習内容の確実な定着を図っている。

## 研修の機会の確保

- 一人一研究授業  
→ 教科部会の活性化
- 互見授業週間  
→ 教師同士が学び合う文化の醸成

## 意図的な「記述」の場面の設定

- ノート指導の徹底  
→ アウトプットする場面の設定
- 活用力育成シートの活用  
→ 表現の仕方の学習
- 付箋の活用  
→ 日常的なメモ、備忘録としての活用

## 数学科におけるウォームアップの工夫

- ① ねらい
  - ・ 基礎的な内容の定着と暗算力の向上を図る。
  - ・ 協働的な学びのための雰囲気づくりをする。
- ② 実施方法
  - ・ ペアで実施し、時間や正答数を測定する。
  - ・ 一方が問題を口答し、一方が正誤を伝える。
- ③ 実施内容例
  - ・ 正負の数 ・ 文字と式 ・ 比例と反比例
  - ・ 立体の表面積や体積 ・ 一次関数 など

yをxの式で表しなさい。 NO1.

① yはxに比例していて、次のような表になる。	② yはxに反比例していて、次のような表になる。																																								
<table border="1"> <tr><td>x</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>y</td><td>-8</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-2</td><td>0</td><td>2</td><td>4</td><td>6</td><td>8</td></tr> </table>	x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	y	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8	<table border="1"> <tr><td>x</td><td>-4</td><td>-3</td><td>-2</td><td>-1</td><td>0</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td></tr> <tr><td>y</td><td>3</td><td>4</td><td>6</td><td>12</td><td>∞</td><td>-12</td><td>-6</td><td>-4</td><td>-3</td></tr> </table>	x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4	y	3	4	6	12	∞	-12	-6	-4	-3
x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
y	-8	-6	-4	-2	0	2	4	6	8																																
x	-4	-3	-2	-1	0	1	2	3	4																																
y	3	4	6	12	∞	-12	-6	-4	-3																																
③ yはxに比例し、x=7のときy=35である。	④ yはxに反比例し、x=-6のときy=-8である。																																								

資料編へ

# 学習集団としての機能の向上と図書館教育の充実

伊達市立伊達中学校

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた表現力の育成のために、単元で育成する表現力を具体的に焦点化して単元構想するとともに、学習集団としての機能を高め、学習活動の工夫に取り組んでいる。また、図書館教育の充実のために各学年、各教科等と学校図書館との連携を強化している。

## 表現力の育成

### DO

- アクティブ・ラーニングを意識した授業展開
- ・ 課題解決的な学習活動を位置付けた「単元構想表」の作成
- ・ 「学習のルール」の徹底と学習集団としての機能の向上
- ・ 考えを自分の言葉で発表・表現する学習の場の設定
- 読書活動の活性化による語彙の獲得
- ・ 朝の読書タイム、授業での図書館の利用

### ACTION

- 週案で授業を振り返り、日々の授業改善
- 課題を職員会、学校評価委員会等で共有

## 図書館教育の充実

- 全校一斉読書の実施
  - ・ 「読書デー」を利用し全校生が同じ本を読む
  - ・ 読後に感想をまとめ国語科担当に提出
- 伊達中学校読書感想文コンクールの実施
  - ・ 課題作品を選定し、国語科の時間に書く。
  - ・ 国語科と図書委員会が中心となり、年3回（6月、11月、2月）実施。
- 授業での図書館利用の促進
  - ・ 各教科各学年で年1回以上の利用
  - ・ 学校司書を活用し必要な資料の収集

平成31年度 図書館教育の充実のための各学年・教科等との連携強化について

### 1 目的

- (1) 読書の質の向上、読書力、文章力の向上を図るため、「読書デー」をさらに推進させ、生徒の読書活動の活性化を図る。
- (2) 学校図書館と各学年、教科等との連携を強化することにより、生徒の「学びの質」の向上を目指す。

資料編へ

# 「たて」「よこ」のつながりを重視した教育活動の実現

## 郡山市立西田学園義務教育学校

本校は、2018年度に県内初の義務教育学校として開校した。義務教育学校としての先行研究が少ない中、「たて」「よこ」のつながりを重視した特色あるカリキュラムを作成したり、小中教員による子どもの姿で学びを語り合う校内研修を推進したりするなど、義務教育学校のメリットを最大限に生かした教育活動を展開している。

### 「たて」部会と「よこ」部会の連携による授業づくり

「たて」部会: 該当教科の専門性や系統性の視点から検討  
 「よこ」部会: 他教科や日常生活とのつながりから検討

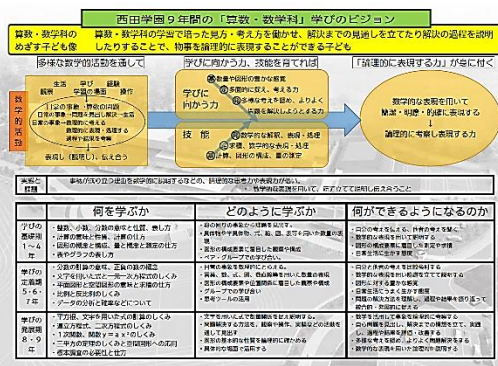
<例> 5年算数科の授業の場合(事前検討会参加者)

「たて」部会: 1~9年の算数・数学担当者

「よこ」部会: 同ブロック(5~7年)の他教科担当者

### 9年間の学びのビジョンに基づく授業実践

- 基礎期の1~4年生、定着期の5~7年生、発展期の8~9年生の育成すべき資質・能力の明確化
- 全教科、領域ごとに作成



### 5年生からの特色ある取組

- 全教科において教科担任制を導入
- コース学習(各学期に3時間程度)の実施
- 中学部と同時期に定期テストを実施

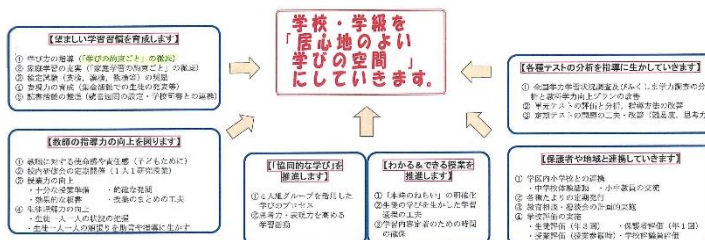
資料編へ

# 教職員の指導力の向上と授業の質的改善

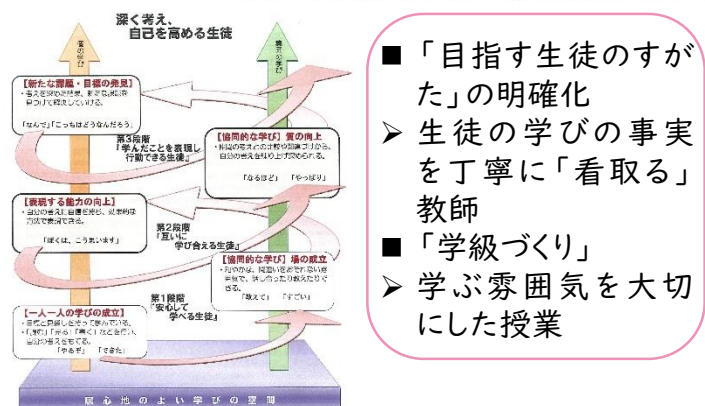
## 須賀川市立西袋中学校

各種調査のデータを基に生徒の実態把握に努め、授業研究会をとおして指導力の向上と授業の質的な改善を目指している。授業交流による小中連携の強化や外部講師を招いた研修などにより教職員同士が学び合うことで授業改善に努めている。

### 授業改善・充実に向けた取組



実態把握	○ 全国学力・学習状況調査やふくしま学力調査の分析と課題の把握 → 活用力育成シートの計画的な利用
校内研修の充実	○ 「居心地のよい学びの空間」づくり ・ 学び合いを中心とした授業 ・ 「一人学び」の指導 ・ 「目指す生徒のすがた」を明確にした授業  ○ 外部講師を招いた研修 ○ 教科の枠を超えた授業研究会
小中連携	○ 地区の小中一貫教育の推進 ○ 授業研究会での交流



資料編へ

「意欲的に学び続ける生徒の育成」を研究主題とし、各種調査の結果や、授業に対しての生徒からの評価アンケートを分析し、課題を共有して授業改善に努めている。また、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を目指し、「読解力・表現力向上トレーニング」に取り組んでいる。

### 生徒と共につくる授業

- 「発問」「指示」「板書」に関するアンケートを実施
- ・ 「授業スタンダード」と、生徒からのアンケート結果を基に授業の質的改善に取り組んでいる。

### 生徒の実態把握

- ・ 全国学力・学習状況調査
- ・ ふくしま学力調査
- ・ 授業に対する生徒アンケート

### 家庭学習の充実

- マネジメントシートの活用
- ・ 計画を立て、取組を振り返る。
- 自学添付シートの活用
- ・ 家庭学習の悩みに対応するため、課題プリントを各教科で配付。

### 言語能力の育成

- 「読解力・表現力向上トレーニング」の取組
- ・ 新聞記事を読んで、大事だと思う文章にマーカーでチェックを入れた後に要約をする。
- ・ 新聞記事を読み、内容に対する自分の考えをまとめ記述する。
- ・ 教職員がチームを作って添削し生徒へフィードバックする。全職員が生徒の言語能力の実態を、リアルタイムで把握することができている。

[資料編へ](#)

## 「個人→共有化→言語化」を重視した授業展開の継続と生徒の実態把握

### 喜多方市立会北中学校

「深い学び」の実現に向け、「授業スタンダード」を基盤としながら、個人→共有化→言語化(発表・書く)といった授業展開を重視した授業実践に全教科で取り組んでいる。また、生徒の実態を全職員で把握・共有化するなど、小規模校の強みを生かした、きめ細かな指導を展開している。

### 「深い学び」の実現に向けて

- 「話し合い活動」「個における振り返り」を全教科で共通実践している。
- 「話し合い活動」が効果的に行われるために、個→集団→個の流れを授業に必ず組み込むように共通理解・共通実践を図っている。
- 振り返りは、自分の言葉で書いてまとめさせる活動を重視している。

### 各種調査の結果分析を生かす

- 全国学力・学習状況調査、ふくしま学力調査等の結果分析を基に、生徒一人一人の学力の実態を校長をはじめ、全職員で共有して指導に当たっている。
- 分析資料等は、ファイリングし、先生方がいつでも活用できるようにしている。
- 各種調査等の問題は先生方も解くことで、生徒たちの実態把握や授業改善に役立てる。

### その他の取組等

- 生徒指導の機能を生かした学級の基盤づくり・授業づくり
- 生徒向け講演会の実施(塾講師、地域人材等を講師として、学びの本質について考える機会に)
- 交換ノート(自主学習ノート)…1冊のノートを校長と生徒でやりとりしている。生徒にとっては2週間に1回ノートが回ってくる。校長が生徒に合った勉強法などをコメントして返却。生徒同士の刺激にも。

# 少人数のよさを生かした個別指導の工夫

南会津町立館岩中学校

少人数のよさを生かし、学級経営の充実を基盤に、個に応じた支援のための環境を整えている。また、互見授業や先進校視察などを通して指導力の向上に向けた研修を充実させている。特に、数学科では、学び方の学習、基礎・基本の確実な習得、振り返りの設定など、学習内容の定着に向けた取組を展開している。

## 個に応じた支援のための環境整備

- 「分からない」が言える学級づくり
- 授業内容の理解の程度に合わせた家庭学習
- 充実したICT環境
- 空き教室を利用した学習室の開放

## 指導力の向上に向けた工夫

- 学力向上計画に基づく計画的な学習支援
- ICTを活用した授業
- 日常的な互見授業
- 先進校視察による研修の充実

## 数学科の授業における工夫

### オリエンテーションで学び方の指導

数学 オリエンテーション	
1	数学の目標 ① 基礎・基本をしっかりと身につけよう。 ② 解決への見通しを持って課題に取り組もう。 ③ 重要な問題に進んで取り組み、より確かな学力を身につけよう。
2	学習の心構え わからないところはわかるまで食い下がり、必ず解決しよう。

### 授業ははじめのトレーニング

- ペアで問題を出し合う
  - ・ 計算問題
  - ・ 定義の復唱 等

### ICTを活用した授業

- ほぼ毎時間使用
  - ・ 課題提示
  - ・ 思考の可視化
  - ・ 適用問題
  - ・ テストの振り返り 等

### 振り返りの設定

- 自分の学習進度に合わせて練習問題に取り組む。
- 学習チェックシートに授業での学びを記入する。

資料編へ

# 生徒が相互啓発する授業と計画的な家庭学習の習慣化

南相馬市立鹿島中学校

国語科の学習を他教科等の学習や学校教育全体に関連させ、根拠を基にした判断力向上のために、各教科等で理由や考えをまとめる時間を確保するなど、生徒が啓発し合う授業を展開している。また、SPL（スタディプランログ）や授業と家庭学習との連動により自らの学習を調整する力を高めている。

## 国語科の実践

- 学習の手引きの作成
- 書く活動の工夫
  - ・ 毎時間のノート添削
  - ・ 書き方や答え方の型の指導
  - ・ 字数と時間の制約
- 意見をもたせるための工夫
  - ・ 意見や根拠が複数になる発問
  - ・ 根拠を明確にした意見の交流
- 振り返りの工夫
  - ・ 一枚ポートフォリオやチェックシートの活用
- 活用力育成シート、定着確認シートの活用
  - ・ 添削後個別指導を実施

## 組織的な取組

- 現職研修部の毎月の振り返りと有効な手だての共有化
- 国語・数学・英語の基礎学力テストの実施
  - ・ 事前に配布したプリントから出題する
  - ・ 合格（80点以上）するまで再テストを実施している
- 各種コンクールの全員参加
- 新聞（全国紙・地方紙・英語）を活用した取組
  - ・ 新聞の読み方と本日の記事を掲示している
  - ・ 3年生は、興味をもった記事を紹介し、コメントをもらっている
- 学習委員会による定期テスト予想問題作成

## 家庭学習の質の向上

- SPL（スタディプランログ）の取組
  - ・ 帰りの短学活で家庭学習の計画を立てる
  - ・ 取組の偏りが無いよう担当が助言する

資料編へ

# キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善

## いわき市立中央台北中学校

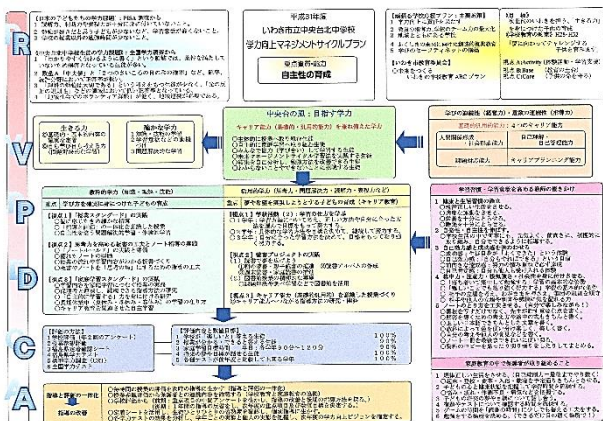
キャリア教育における「基礎的・汎用的能力」を意識した授業を実施することにより、授業の質の向上につながっている。また、教科の枠を超えた互見授業を日常的に実施している。キャリア教育を基盤に、「記述」や「他者との関わり」の機会を数多く教育活動全体で展開している。

### キャリア発達を基盤とした授業づくり

- ① キャリア教育アンケートによる実態把握
- ② キャリア発達を促す授業の創造
- ③ 小学校、保護者・地域社会との連携

### 「基礎的・汎用的能力」を意識した授業改善

- 実態把握**
- ・ 年に2回、キャリア教育アンケートを実施
  - ・ データを基に生徒の変容を把握
  - ・ 教育活動全体で育成
- 単元計画への位置付け**
- ・ 学習指導案の中に「単元の中で高めたい基礎的・汎用的能力」の欄を設け、学習過程の中でその能力を高めることを意識する。
- 指導方法の改善**
- ・ キャリア能力をカードにして黒板に掲示
  - ・ 教科部会や校内研修で互見授業



資料編へ

### 【関連資料】

#### ・ふくしまの「授業スタンダード」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902203.pdf>

#### ・ふくしまの「家庭学習スタンダード」

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/img/kyouiku/attachment/902205.pdf>

#### ・ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/312242.pdf>

#### ・ふくしまの「家庭学習スタンダード」を活用した家庭学習の充実に向けた実践事例集vol.2

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/370507.pdf>

